

# 学校評価書

総社市立阿曾小学校  
校長 石井 恭子  
(公 印 省 略)

## I 自己評価

### 1. 確かな学力の育成

#### 【主体的に学び合いながら、分かる喜びを感じる児童を育てる】

・授業がわかりやすいと回答した児童が92%、ペアやグループで学習するときには友達と協力し合いながら学習していると回答した児童が94%であった。本校児童は、人に伝えることを苦手としており、聞いている人を意識した発表の指導を全校で行ってきた。みんなに聞こえる声や速さで話していると回答した児童は87%で、目指した90%には届かなかった。

#### 【学びの基礎力となる学習習慣を身につけようとする児童を育てる】

- ・自分から進んでAZOノートやUraノート(自主学習ノート)に取り組んだと回答した児童は 87%で、前回に比べて、数値は上がったが、目指した 90%には届かなかった。また、本校児童は、平日の家庭学習時間は確保できているが、土日の家庭学習時間が少ない実態がある。週末課題等、宿題の量や内容に工夫が必要と考える。
- ・宿題など家庭学習をする習慣が身につけてきていると回答した保護者が 84%で、前回に比べて数値は上がった。計画を立てて家庭学習に取り組む児童は増えており、今後も家庭へ周知を図り、協力を得ていきたい。

### 2. 心の教育の充実

#### 【学校生活の様々な場面で、みつけ玉、ねばり玉、しんせつ玉を磨くことができる児童を育てる】

- ・自問の取り組みについては、無言清掃は継続しているものの、2学期に比べ、-5%の減少になっている。やや落ち着いて掃除できない児童が見うけられる。阿曾小学校の伝統にもなっている自問教育を引き継ぐために、児童が中心になって手本が見せられるよう、高学年の指導や計画委員会の活用を考えていきたい。
- ・授業開始前の着席については、92%となり、落ち着いて学習できる心の準備はできるようになってきており、指導の効果が上がってきている。

#### 【心が通うあいさつや時と場に応じた相手を思いやる言葉遣いができる児童を育てる】

- ・授業での先言後礼でのあいさつについては、89%の児童ができていると回答している。今後の指導を続けていく。
- ・あいさつについては-5%で、ややできにくい児童が増えている。特に地域の人へのあいさつはできにくい実態が地域の方からも指摘されている。様々な場面で思いやりの気持ちをもったあいさつができるようになるように継続した指導を行っていく必要があると考える。
- ・活動中の「さん」「くん」について、授業中については概ねできている。しかし、縦割り活動になると、低学年が高学年を正しくない言い方で呼ぶことが気になっている。人を大事にする心を育てるために「～さん」をつけて名前を呼ぶことを、今後、様々な場面での指導を行っていく。

### 3.連携協働する学校づくり

【地域の方に支えられていることを知り、感謝の気持ちを持ち、伝えられる児童を育てる】

- ・本校は、地域の方が月に 1～2 回環境ボランティアに来てくださる。昨年度までは、その日の様子を写真に撮り、事務が「ボランティア新聞」をその日のうちに作り、掲示板に掲示していた。今年度は、動画に撮り、GIGA パソコンで見ることができるようクラスルームに載せた。実際にしてくださっている動画を見ることは、子どもたちが知ることに大きく役立った。また、週目標として「地域のスーパーマンを見つけよう」というめあてを考えた。意識して自分たちの身の回りで、自分たちを支えてくださっている地域の方を見つけるよい機会になった。次年度も続けていきたい。
- ・次年度は、地域の方との協同で作業する機会を作り、ボランティアの皆さんとの関係性を深め、引き続きふるさとの一員として、総社、阿曾を愛する子供の育成に努めたいと考える。

【お互いの願いや思いを分かち合うことができる職場づくり】

- ・コンプライアンス研修などの時間を利用し、短時間でも職員が自由に話す機会を確保したことは、コロナ禍の中でのコミュニケーションを図るということでは有意義であった。
- ・ホワイトボードを活用して、援助を求めることができるよう周知した。「助けて」「教えて」が気軽に言い合える職場を今後も目指していく。

## 2 学校関係者評価者名

- ・片山 多美子（地域関係者・更生保護女性の会） ・本行 一江 （阿曾幼稚園長）
- ・服部 英文 （育成センター職員） ・武田 里美 （主任児童委員）
- ・塩見 恵 （PTA副会長）

## 3 学校関係者評価

### 1.確かな学力の育成

【主体的に学び合いながら、分かる喜びを感じる児童を育てる】

○自己評価は適切である。

- ・目標設定については他のプロジェクトと同じくらいにそろえてはどうか。
- ・GIGAパソコンなど新しい教具などを活用して、学びを高めることを十分よくやっている。

【学びの基礎力となる学習習慣を身につけようとする児童を育てる】

○自己評価は適切である。

- ・AZO ノートの使い方について、担任間での情報共有を図り、使い方についての情報共有を一層図って欲しい。
- ・中学校区でそろえたメディアコントロール週間の取り組み、廊下への好事例の掲示、達成した子の表彰など、さまざまな工夫がなされている。

### 2.心の教育の充実

【学校生活の様々な場面で、みつけ玉、ねばり玉、しんせつ玉を磨くことができる児童を育てる】

○自己評価は適切である。

- ・黙って掃除ができるということは素晴らしいことでこれからも良い伝統を引き継いでいってほしい。子どもにしっかり自問掃除のよさを伝えてほしい。
- ・高学年が他の子どもたちに自問掃除について伝えるような取り組みができるとうい。

【心が通うあいさつや時と場に応じた相手を思いやる言葉遣いができる児童を育てる】

○自己評価は適切である。

- ・あいさつができる子はするが、しない子はしないと分かれている。コロナ禍で大きな声を出すことを控えてきたが、今後、大きな声でのあいさつができるようになったらできるようになってほしいか。

### 3.連携協働する学校づくり

【地域の方に支えられていることを知り、感謝の気持ちを持ち、伝えられる児童を育てる】

○自己評価は適切である。

- ・関わってくださっている方々に感謝の気持ちを伝えていくことで、お互いのつながりができる。これからも関わり合いやつながりがもてるように工夫をしていってほしい。

【お互いの願いや思いを分かち合うことができる職場づくり】

○自己評価は適切である。

- ・風通しのよい職場づくりに向けて、今後も継続した取り組みを続けて欲しい。

## 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

### 1.確かな学力の育成

- ・子どもたちが「わかる」「考える」授業づくりに向け、GIGA パソコンやマナボードを有効的に活用するとともに、さらなる授業改善を行う。
- ・引き続き、総社東中ブロックの取り組みであるメディアコントロール週間を中心として家庭学習時間の達成率の向上を目指す。

### 2.心の教育の充実

- ・阿曾小学校が伝統的に取り組んでいる自問掃除の指導を継承していく。また、子どもたち自身が無言の必要性を考えながら自問掃除に取り組むことができるように継続指導を行っていく。
- ・気持ちのよいあいさつができる児童の育成を目指す。

### 3.連携協働する学校づくり

- ・学校の教育活動を、学校だよりやホームページを活用して積極的に発信していく。
- ・ボランティアの方と児童で共同してできる作業を計画する。